

会議録

会議の名称	令和 6 年度 第 1 回あま市スポーツ推進連絡会議	
開催日時	令和 6 年 7 月 1 7 日（水）午後 7 時から 8 時	
開催場所	あま市役所 2 階 E 会議室	
内 容	1 開会 2 委嘱状交付 3 会長あいさつ 4 令和 5 年度第 2 回あま市スポーツ推進連絡会議録について 5 議題 （1）令和 5 年度第 2 回あま市スポーツ推進連絡会議における意見と検討状況について （2）令和 5 年度スポーツ推進計画にかかる関係課の取組項目（結果・評価）について （3）令和 6 年度スポーツ推進計画にかかる関係課の取組項目について （4）意見交換 【テーマ】 スポーツとの出会いの場の充実について 6 その他	
資 料	・次第 ・あま市スポーツ推進連絡会議委員名簿 ・座席表 ・【資料 1】 令和 5 年度第 2 回あま市スポーツ推進連絡会議録について ・【資料 2】 令和 5 年度第 2 回あま市スポーツ推進連絡会議における意見と検討状況について ・【資料 3】 令和 5 年度スポーツ推進計画にかかる関係課の取組項目（結果・評価）について ・【資料 4】 令和 6 年度スポーツ推進計画にかかる関係課の取組項目について ・【資料 5】 スポーツとの出会いの場の充実について	
出席委員	石塚吾歩路会長、石塚建伸副会長 川寄寛繼委員、木全克己委員、田中裕美委員、石黒孝委員、立松武子委員、石原晶子委員、中村博美委員 （委員名簿順）	
欠席委員	竹田竜一郎委員	
事務局	（教育委員会） （教育部スポーツ課）	伊藤克仁教育長、鎌倉崇志教育部長 小関勝課長、栗原一成主幹、田口健次郎主幹、 水野晃寛課長補佐、菅原孝徳課長補佐、 山田昌也課長補佐

会議の経過

1 開会

2 委嘱状交付

あま市小中学校校長会会長の交代により横井三千代委員が辞任し田中裕美氏を委員に任命する。

【質疑応答】 なし

3 会長あいさつ

4 【資料1】令和5年度第2回あま市スポーツ推進連絡会会議録について事務局より説明

【質疑応答】 なし

5 議題

- (1) 【資料2】令和5年度第2回あま市スポーツ推進連絡会議における意見と検討状況について事務局より説明

【質疑応答】

委 員：令和6年3月24日に開催された『あま市民デー』の参加者数は？

事務局：300名。名古屋ファイティングイーグルスに観覧席を確保、あま市広報等でPR、インターネットで応募、あま市民を無料招待。

委 員：あまスポーツクラブの年間講座で、2年前より名古屋ファイティングイーグルスOBが指導をしている講座あり、人気が高くプロの試合の見学も行っている。

会 長：各団体連携を図り展開させ「みる」「ささえる」をより強く押し出すと良いのでは。

- (2) 【資料3】令和5年度スポーツ推進計画にかかる関係課の取組項目（結果・評価）について事務局より説明

【質疑応答】

委 員：資料4ページ「親子のびのび運動」についての説明を求める。

事務局：実施はしたが、応募人数が予想を下回ったため、1講座のみとなり「計画通りに進めることができなかった」との評価とした。

- (3) 【資料4】令和6年度スポーツ推進計画にかかる関係課の取組項目について事務局より説明。

【事前質問】

委 員：令和6年6月16日に開催された「オリンピック・パラリンピック市民応援事業」に関する情報発信や宣伝活動について広報以外のアプローチ方法と具体的にどのような団体へ声掛けをしたのか。

【回答】

事務局：「あま市公式ウェブサイト」「Instagram」「きずなネットメール」「あま市公式LINE」「記者発表」などで周知。障がいを持つ方には、あま市身体障害者福祉協会に文書で案内。来場者数は、BMX体験会37名、モルック体験会61名（障がいのある方を含む）、市役所展示スペースでの「あま市ゆかりの選手にエールを送ろう！」を2回開催。来場者数は、6月9日156名、6月16日176名 合計332名

【報告】

委員：令和6年6月16日モルック体験会時、あまスポーツクラブが指導。当日の写真を回覧。市役所東側の砂地広場で開催。障がいのある方、スポーツ少年団員が多数参加し大変有意義なものであった。練習に関して場所、日時の質問を多数受けた。秋には第1回モルック大会を開催予定。

(4) 意見交換

【テーマ】スポーツとの出会いの場の充実について

【資料5】スポーツとの出会いの場の充実について事務局より説明

会長：スポーツとの出会いの場の充実について意見、提案、情報を求む。

委員：あま市立中学校クラブ活動が地域に移行する時期は。

事務局：国は、令和8年度までに形を作り進める方向。実際、他市町村では、既に進めている所もある。

あま市は、令和7年度より徐々に進めていく予定。

委員：剣道、柔道とも少子化の影響で団体戦が開催できない状況である。スポーツをしない子どもの割合が増加、ケアの必要性を考える。

会長：部活動は、本来学校内で行われるのが理想だが教師の多忙化で、困難な状況。そこで先ず土日から部活動を地域移行をと県はモデルケースを作り整理する意向である。子どもたちにとって現存の部活動という環境が無くなるのがデメリットであるため早急に方向性を示して欲しい。

委員：スポーツが好きな子どもはスポーツを、読書が好きな子はそちらをと選択可能にすることも重要。この地域移行が子どもたちの声なくして進んで良いのかとも考える。アンケート4番のスポーツ教室利用意向について「あっても行かない」が45%、「好きな種目があれば行きたい」が44%。この結果、子どもたちが求めるスポーツ教室と市のものがマッチしていないのではないかな。もう少し子どもや保護者の声を聞くべきではないか。

委員：スポーツは、子どもたちにとって健康のために身体を動かすためのものではなく作戦を練る、チームプレイ、協調性の大切さを学ぶ場でもある。月に一度ではあるが、運動的（室内・室外）、文化的、音楽的、コンピューター的などのクラブ活動を行っている。一番子どもたちが楽しく行うのはボール遊びでドッジボール、ビーチバレーなどを通しチームメイトの努力を認め合うという点を注視している。体育の授業が4年生までは、週3時間、高学年では多少削られるが、国も体育の重要性を認

めている。例として「体育の授業でボール運動が楽しかったから地域のクラブに参加しよう」という子どもが見られる。地域には、サッカー、野球、テニス等のクラブが存在し、多少費用はかかるが、我が子が興味を持てば各クラブへ送りだすのではないか。運動にふれる機会に繋がるよう子どもたちに対応する必要性を感じている。

会 長：子どもの減少と子ども会の関係で質問はあるか。

委 員：コロナ前後で様々な変化があった。福祉の観点から子どもや子ども会に関するスポーツ競技やイベントの案内が少ない。紙芝居、交通安全教室、自然体験等の案内が大半である。モルック、BMXなどの競技を次世代を担う子どもたちに、子ども会を通じ紹介、参加案内を告知するのはどうか。もう1点、小中一貫体制について時折耳にするが、9年をひとつの単位とし縦長教育が今後リーダー性を育むうえで重要視されるのではないか。

会 長：現代において情報発信は重要だと改めて感じる。未就学児親子について質問はあるか。

委 員：未就学児・親子のふれあう交流会を毎月開催。資金は、様々な企業や事業主からの賛助会費で賄っている。バランスボールやヨガの講師を招き親子で身体を動かす活動を月に1、2回開催。

会 長：スポーツ推進は、全世代一緒に行うことが可能であり、その点が重要。

委 員：レクリエーションでは、跳ねる、転ぶ、くぐる、寝転がる「忍者フェスタ」を年2回開催。動きそのものが面白いため、2・3歳児から小学校高学年までの参加がある。また、ニュースポーツ要素を備えた「遊びフェスタ」を年2回開催。体を動かす競技、遊びと捉える人が一定数ありアンケートの中の「スポーツ教室があってもいいかない」に反映されているのではないか。

委 員：高齢者の中には、「子どもたちや若い人からパワーをもらえる」とボランティアとしての参加も見られる。

事務局：昨年度、スポーツ推進計画作成とは別に、教育者、子どもたちへのアンケートを実施。今年度は、保護者へのアンケートを行い実態把握、今後の部活動の地域移行への材料とする。地域移行というと全てが移行すると捉えがちのため、地域連携という言葉が好まれる。新聞などで既に報道があるが、中学校の部活動の大会が一部種目で開催されなくなる。それを踏まえ、学校での部活動を縮小する可能性があると考ええる。現在部活動は自由参加であるが、その状況下で来年度の動向、予算取りを思考中である。次回の会議を令和7年2月ごろに予定しているので、その時に報告したい。教育委員会としては、この会議はスポーツ推進連絡会議であるので、スポーツを親しむ子どもの増加、文化部の読書推進計画に基づいた読書をする子どもの増加が理想。

委 員：美和高校は今後、中高一貫校となりその中で、地域探求科を設立。あま市との直接的な関わりに期待したい。地域全体でスポーツを楽しむコミ

ユニティースクール、地域の学校共同活動、放課後子ども教室などで縦長の繋がりの中で成長し合うのが理想である。津島市の「月テラ（月曜寺子屋）」「ドテラ（土曜寺子屋）」がヒントになるのではないかな。

会 長：スポーツという言葉の捉えかたの変化を我々も理解が必要。文部科学省も「こどもまんなか」と強く打ち出していることを念頭に置くべき。

委 員：スポーツ推進委員は、ラジオ体操の集いや体力測定会など6つの事業を行っている。体力テストのテストというとネーミングが参加しづらいのではということで今年より「体力測定会」と名称変更をした。費用対効果の優れているイベントを今後開催予定。PR方法は、ネット、紙媒体の双方が望ましい。

委 員：マイナー競技の認知度を上げるためにすべきことが課題である。地元選手の活躍を通し今後どのように盛り上げていったら良いか。女子レスリングの吉田沙保里氏の例も参考に考える。

会 長：スポーツの出会いの場の大切さは共通認識。さらなる充実を目指し、子どもたちの意見を傾聴しトレンドも含め常に情報発信や啓発活動の必要性を改めて感じた。多くの貴重な意見を賜り感謝する。前回と同様に事務局と私で整理し方向性をまとめ、伝えたい。

委員一同：了承。

会 長：賛同を得る。次回の会議において整理したものを報告予定。
本日の議題は、全て終了。

6 その他

事務局：次回の令和6年度第2回あま市スポーツ推進連絡会議は、令和7年2月頃を予定。日程が決まり次第案内。

会 長：以上を持ちまして、本日の連絡会議は終了。

7 閉会